

# JAERA NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- 巻頭言… P1 □コロナ禍の現状と今後の見通しと要望事項などアンケート調査結果…P1・P2・P3
- 8月新車販売・使用済自動車発生台数… P3 □自動車リサイクル業界の景況調査実施について… P4
- J-FAR 事業「ベースリサイクル実態調査」最終報告 / 地域ブロック会議… P5
- 地域ブロック会議 / 機構事務局 新人紹介… P6
- 鉄スクラップ最新情報… P7 □行事予定・お知らせ / 編集後記… P8

vol.139

## コロナ禍の現状と今後の見通し 要望事項などアンケート調査結果 (1)

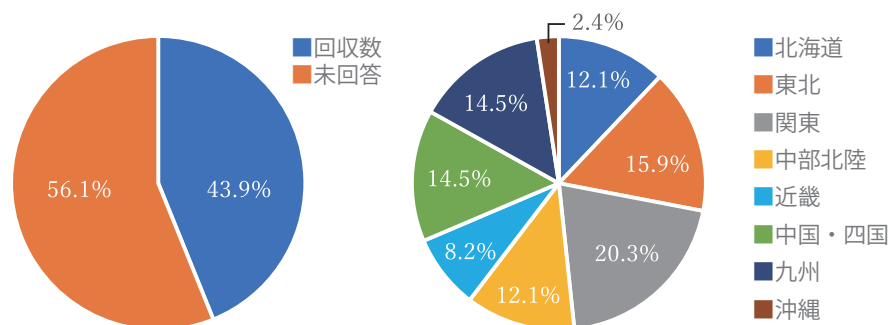
01

JAERA 広報部会の活動として、3月の調査に引き続き、機構会員の皆様に「新型コロナウイルスによる事業への影響実態調査」を実施いたしました結果を報告いたします。

【アンケート調査期間 8月21日～8月31日】

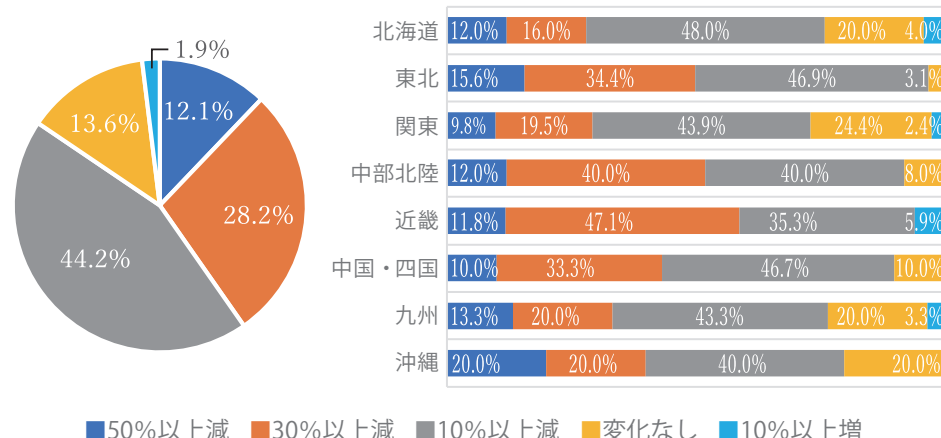
### 【アンケート調査結果】

1：回答率 43.9% (208件 / 474件)



2：「車の入庫」は、前年に比べ全体の84.5%が減少と回答。

・減少幅が30%以上との回答は、近畿、中部・北陸、東北で50%強となっている。



## 巻頭言

今回のニュースレターでは、会員の皆様からのアンケート集計結果をグラフ化しており、昨年来の消費税増税、コロナ禍などにより、前年同月比で大幅な入庫減になった会員企業様が多数存在していることがみとれます。

一方でニュースレターの3ページに記載されている『使用済み自動車引き取り実施状況』をみますと、引取件数が前年同月比で約1割減の90.1%であり、不思議に思われる会員様もいらっしゃるかもしれません。

個人的な推測になりますが、国内での解体車の発生台数が減少している中で、雇用を守るため、売上規模を守るために、一部の会員企業様も、企業努力により、あるいは無理をしても、解体車を集めようとされているのではないのでしょうか。

その結果、なんとか現状維持、あるいは増加させる企業がある一方、30%以上の入庫減になってしまう業者が必然的に増えてしまうと推測できます。

今回のアンケート結果が、業界の現状をどのように読み解いていくかの参考になれば幸いです。

〈広報部会 小宮山 敬仁〉

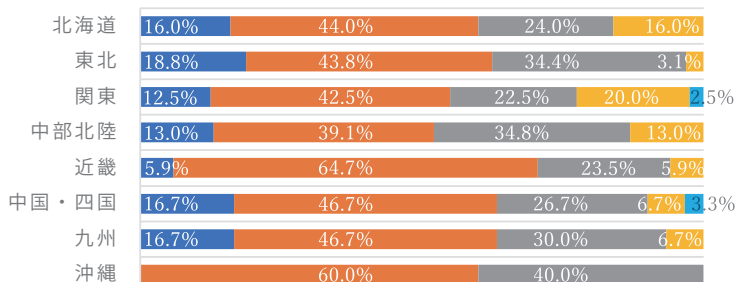
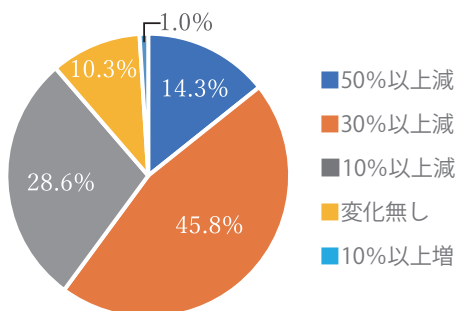
《編集・発行責任者》  
 一般社団法人日本自動車リサイクル機構  
 広報部会長 永田 則男  
 《お問い合わせ先》  
 一般社団法人日本自動車リサイクル機構  
 〒105-0004  
 東京都港区新橋3丁目2番2号  
 TEL: 03-3519-5181  
 FAX: 03-3597-5171  
 MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp  
 HP: http://www.elv.or.jp/

# コロナ禍の現状と今後の見通し 要望事項などアンケート調査結果 (2)

# 01

## 3: 「鉄スクラップの売り上げ」は、前年に比べ全体の88.7%が減少と回答。

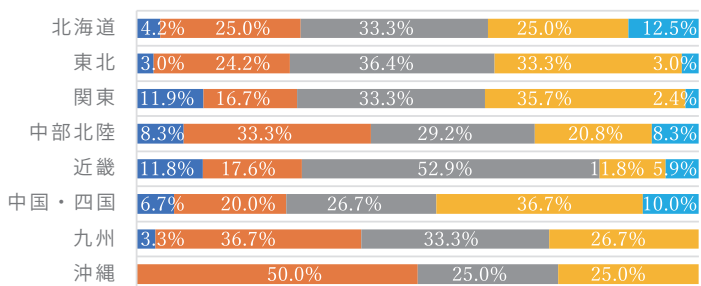
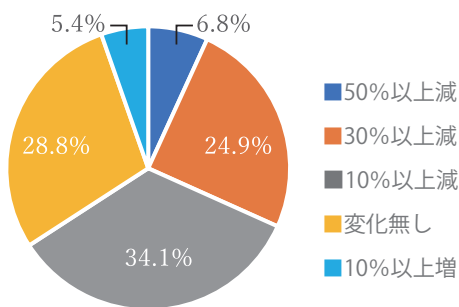
・減少幅が30%以上との回答は、近畿の70.6%を最高に全地域60%前後減少している。



■50%以上減 ■30%以上減 ■10%以上減 ■変化なし ■10%以上増

## 4: 「部品売り上げ (国内向け)」は、前年に比べ全体の65.8%が減少と回答。

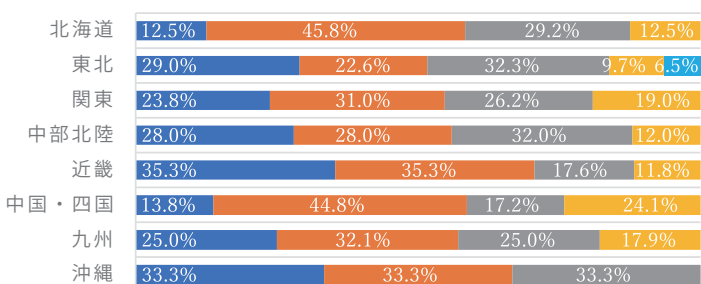
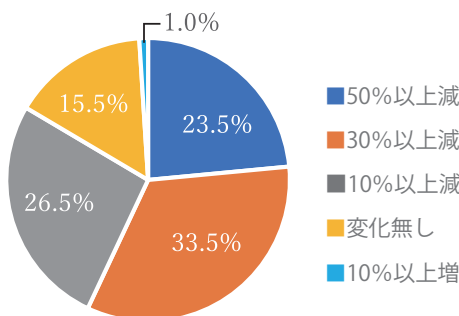
・減少幅が30%以上との回答は、沖縄の50%を最高に中部・北陸41.6%、九州40%他の地域は、30%近い減少となっている。



■50%以上減 ■30%以上減 ■10%以上減 ■変化なし ■10%以上増

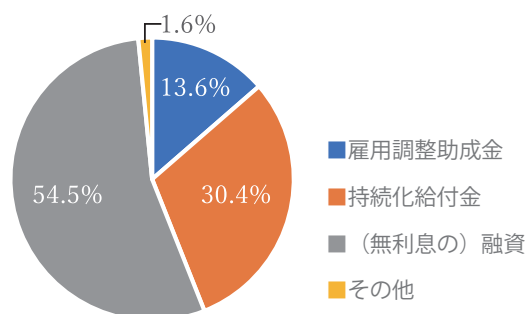
## 5: 「部品売り上げ (外国向け)」は、前年に比べ全体の83.5%が減少と回答。

・減少幅が30%以上との回答は、近畿の70.6%を最高に、全地域で50%強以上減少している。



■50%以上減 ■30%以上減 ■10%以上減 ■変化なし ■10%以上増

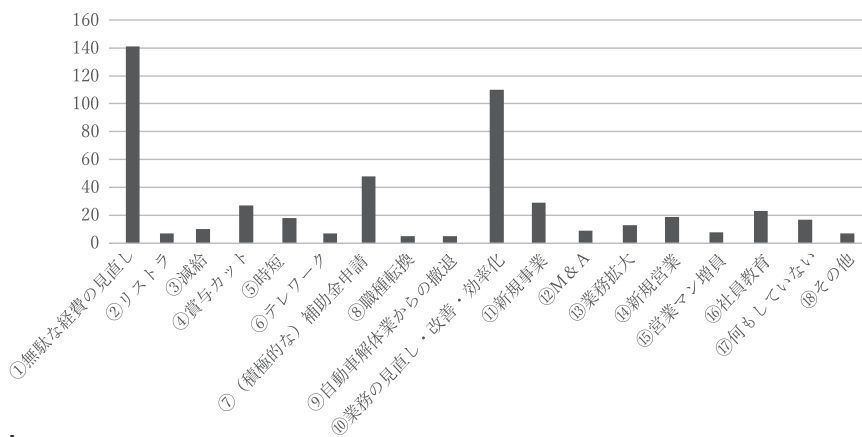
## 6: 公的な融資や給付金の受給状況



- (1)雇用調整助成金、持続化給付金の受給は、全体の44.0%
- (2)無利息の融資は、全体の54.5%
- (3)給付金と無利息の融資を併用されているのは38件、アンケート回答件数の18.3%

## 7：事業を存続させるために『検討している対策』

- (1)無駄な経費の見直しを実施している会社は、全体の67.8%
- (2)業務の見直し・改善・効率化に取り組まれている会社は、全体の52.9%
- (3)何もしていないと回答された会社は、全体の8.2%
- (4)積極的な補助金申請をしている会社は、全体の23.1%
- (5)自動車解体業からの撤退を考えられている会社は、全体の2.4%



## 8：「コロナ禍において、今後業界に望むこと」

- ・消費税や助成制度・規制緩和などに関する要望 (19/48)
- ・リサイクル料金(フロン、エアバック類)やスクラップ価格、費用に関する要望 (6/48)
- ・リサイクル制度見直しに関する要望。取り締まりに関する要望。(6/48)
- ・リサイクルシステム改善に関する要望 (5/48)
- ・無許可業者、外国人などの取り締まりに関する要望 (3/48)
- ・その他、地位向上、リサイクル士制度更新の延期、マスクの配布など (9/48)

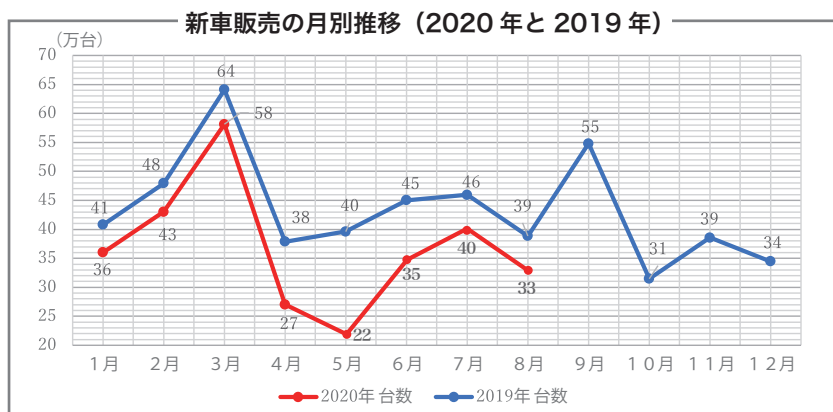
以上、48件のご意見が寄せられました。本内容は、経済産業省・環境省・関係団体等にも自動車リサイクル業界の現状として報告いたします。また両省から国が進めている事業者への対策・支援などの最新情報の提供を受け、随時メルマガにて情報発信いたしますので、確認の上ご活用下さい。

今後もコロナ禍の影響が見えない状況が続くものと予想されます。業界一体でこの難局を乗り越えましょう。

## 8月新車販売・使用済自動車発生台数

# 02

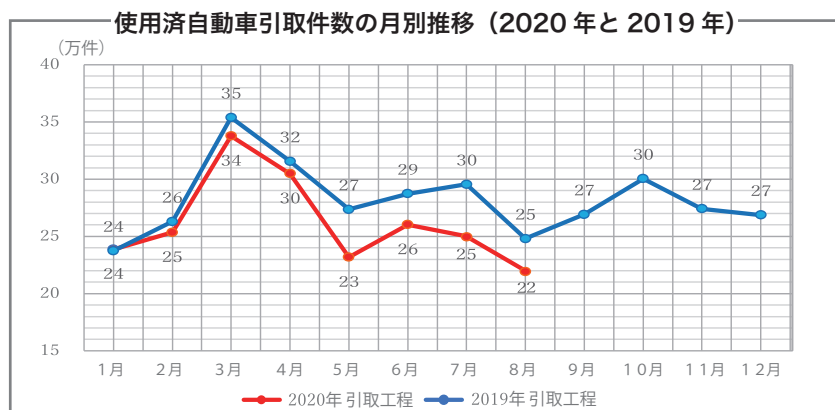
### ■2020年8月度 新車販売台数 326,436台 前年同月比 84.0%



年累計	台数	前年比(%)
2020年(8月まで)	2,930,558	81.4
2019年	5,195,134	98.5
2018年	5,271,987	100.7
2017年	5,234,095	105.3
2016年	4,970,197	98.5

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

### ■2020年8月度 使用済み自動車引取(電子マニフェスト)実施状況



引取件数
223,408件 (前年同月比 90.1%)
フロン回収工程
200,472件 (前年同月比 89.6%)
解体工程
231,705件 (前年同月比 90.0%)

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

本調査は、日頃より機構活動や未来部会での企画講演などに連携いただいております「東京都市大学環境学部 木村准教授」より調査提案をいただき、第2回常任役員会にて承認されたものです。会員各位のご協力よろしく申し上げます。

調査の概要は、以下のとおりです。詳細につきましては、メールマガジン等でご案内いたします。

- |       |                |                      |             |
|-------|----------------|----------------------|-------------|
| ①調査期間 | 2020年10月から約1年間 | ②調査回数                | 年4回（四半期に1回） |
| ③調査項目 | 13項目（毎回同じ設問です） | 【第1回目の調査は、10月1日～15日】 |             |



東京都市大学  
環境学部  
准教授

木村 眞実 様

## ■木村准教授より

### 一「景況調査」とは何か？

皆様、こんにちは。東京都市大学の木村眞実です。今回は景況調査について、考えてみたいと思います。景況調査の目的は何か。そして、私たちは調査結果をどのように活用することが出来るのでしょうか。

### 一 景況調査の目的は？

中小企業庁では「中小企業景況調査」の目的として以下を挙げています。

- (1) 中小企業施策の企画・立案に必要な資料・情報収集
- (2) 都道府県の施策立案、中小企業関係機関の診断指導等のための資料提供
- (3) 中小企業の経営に必要な情報提供

引用：中小企業庁ホームページ

つまり、景況調査の結果は、行政等が政策を立案する際の基礎資料になるとともに経営者が自社の経営環境を理解するのに役立ちます。また、何かしらの経営意思決定を行う際にも使えるでしょう。

### 一 経営意思決定に役立てるためには？

ご存知のように、コロナ禍では業績が悪化した企業・業界と、業績が好調となった企業・業界が見られました。飲食・観光業は苦しい状況ですが、オンライン会議が増加したことでオンライン会議用アプリの提供企業は業績が上がっています。つまり、業界によって、発生するリスクと影響が異なっており、より「対象を絞った景況調査」が求められるのではないのでしょうか。

そこで、私は、日本自動車リサイクル機構の会員企業を対象として、四半期毎に継続して、景況調査を行いたいと思います。「景況調査」の結果は、自社が業界内でどのような位置にあるのかの目安として使えます。また、経営意思決定を行う際の情報を提供するものと考えます。一緒に、「景況調査」のデータを使い、私たちの自動車解体業界を見てみませんか？ そして、景況調査の結果を受けて、貴社ではどのような経営意思決定を行いますか？

詳細は当機構ホームページに記載しております。

「会員を対象とした景況調査とBCP実態調査の実施について」

<https://www.elv.or.jp/index.php?itemid=1697>



## 自動車リサイクル高度化財団からの受託事業 「使用済自動車の解体段階におけるベースリサイクル率の実態調査」の 最終報告について

本事業は、2018年度より3ヶ年にわたり取組みを推進し、事業期間の2020年8月31日までに、すべての事業を終わらせ、自動車リサイクル高度化財団へ最終の報告書を提出いたしました。その後、9月16日（水）自動車リサイクル高度化財団 業務委託委員会の委員（9名）・事務局の皆さまへの最終報告会がリモート会議にて行われ、酒井代表にも出席いただきました。

この度の事業は、自動車リサイクル業界にとって非常に貴重な情報であり、関係者の関心度も大変高いようです。今後、自動車リサイクル高度化財団からの受託事業の「事業報告会」が予定されております。

会員の皆さまには是非視聴いただきたいと思っておりますので、開催日時が決定いたしましたら改めてご案内いたします。



## 地域ブロック会議

# 05

### 北海道ブロック会議

北海道支部第2回ブロック会議が8月18日（火）に開催されました。理事14名、ゲストに北海道経済産業局 環境リサイクル課 田口課長様にも参加いただきました。

最初に北海道経済産業局より補助金関連の説明があり、「使える支援メニュー」「Jクレジット」についての説明を頂きました。会員から現状どうしたら使えるのかの質問があり、経済産業局にご連絡いただければ、ケースごとに丁寧に相談に乗っていただけるとの回答でした。その後情報交換会・機構本部報告・各支部活動報告がなされました。

当日の主な論点は、①「自り法15年目の見直し」については、時間のかかる提案が多いので、しっかり対応願いますとの励ましの言葉を頂いてます。②自動車リサイクル士制度については、コロナ禍は分るが現場の環境も考えてほしいとの意見があった。③エアバックオークション出品問題の取組報告、④J-FARへの協力依頼等の議論がなされ、支部活動の⑤次世代プロジェクトは、今期勉強したいテーマについて9項目のアンケートを実施、今後その結果から絞り込み「今期のテーマ」決定し実施していくことを確認しました。



## 東北ブロック会議

第1回東北ブロック会議が9月4日(金)いわて県民情報交流センターで開催されました。各県支部長、副支部長8名の参加とWebにて酒井代表が参加されました。

当日の議題は、①各支部からの要望・提案、②各支部の課題及び取組み状況、③各支部の状況など、各支部長より報告が行われ、各支部とも「車の在庫」が減少、仕入れ価格も上昇と厳しい状況が続いている。また、コロナ禍の状況下での自動車再資源化協力機構様の監査について、感染予防対策が適切に実行される監査方法を要望する意見や資源価格の変動による解体方法が異なるなどの意見が出されました。

機構本部活動報告は、酒井代表から「自動車リサイクル法15年目の見直しについて」今後開催される合同審議会への機構提案資料の説明が行われました。

後半の部では、J-FAR 受託事業「リサイクル設計事例集制作」ヒアリングメンバーの選出、自動車リサイクル士制度認定講習会の更新講習会受講申し込みの促進、今後の活動予定など展開と議論がなされました。



## 中部・北陸ブロック会議

9月7日(月)名古屋ウイंक愛知にて第1回中部・北陸ブロック会議を開催しました。当初は、ZOOM 会議も検討されましたが光山ブロック長の「第1回目は、皆さんと顔を合わせ開催したい。」との思いから集まる事が出来ました。本部からは木内副代表理事、奥野事務局長にもZOOMでご参加いただき、「自動車リサイクル法15年目の見直しへの提案事項について」の報告を受け、活発な意見交換を行いました。

中部・北陸ブロックは、ブロック長が持ち回りで各県全てがブロック長を経験し、「今まで分からなかった事が分かるようになってきた」との意見から機構と一般会員の温度差を埋めていけるよう、まずは中部・北陸ブロック全体会を近日中に開催することを決めました。次世代の後継者・若い世代の人達とも未来を語り、会員以外の同業者にも声を掛け、会員増強にも努めていくことを話し合いました。



## 機構事務局 新人紹介

# 06

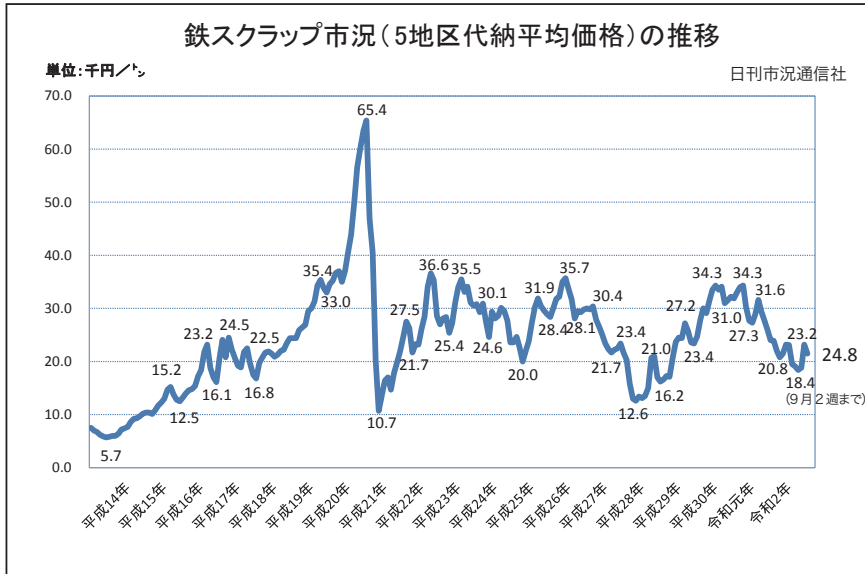
はじめまして。9月1日に入社しました京野 新達(きょうの あらた)です。私自身、オイル交換等自動車を整備することやドライブが好きであり、身近なものであった自動車を大切な資源として、適正に処理していただいている皆様のお力になれることで、業界の発展、引いては地球環境の保全に貢献できることに大きな魅力を感じて入社いたしました。

若い時の苦勞は買ってでもしろという言葉に胸に、しっかり勉強させていただき、「一生懸命」取り組むことでいち早く皆様のご要望等にお応えできるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

名前：京野 新達 (きょうの あらた)  
(31 歳)

好きなもの：ドライブ (年 15,000km 以上走ります。)  
お酒 (お酒は全部好きですが、日本酒はもっと好きです。)  
趣味：アイスホッケー (ゴールキーパー)・釣り (特に鮭釣りが好きです。)

## 9月第3週(17日)の鉄スクラップ動向



9月17日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	26,000 ~ 28,000	ジリ高
	南関東	26,000 ~ 28,000	ジリ高
名古屋		25,500 ~ 27,000	値上がり
関西	大阪	25,000 ~ 27,000	値上がり
	姫路	25,500 ~ 26,500	強含み

### ベトナム向け日本産鉄スクラップ価格は上値重く横ばい

日本産鉄スクラップ相場を牽引してきたベトナム向け輸出価格の上昇が一服している。日本側の H2 オファー価格は 1 トンあたり CFR315 ~ 320 ドルどころに達しているが、直近の成約価格帯は 308 ~ 310 ドル (FOB 推定換算値 3 万円どころ) と先週から横ばいだ。

これまでの契約で約残が増加したこともあり、新規商談を検討するベトナムメーカーの数も減少。交渉価格は上値が重い状態だ。週明けに聞かれた成約を最後にベトナム側の多くは様子見姿勢となっている。今週に入り為替市場で円高が進行していることも重荷になり「ベトナム側の打診価格はやや下落する気配がある」(商社筋) という。

一方、ここへきて同国向けでは欧米産鉄スクラップの成約が出ている。貿易筋によると、直近の欧州産 HMS1&2 (70 : 30) で CFR316 ドルどころ、米国産同 (80 : 20) で CFR318 ドルどころ。米国国内価格やトルコ向け価格の上昇を背景に米国産オファー価格は一時 320 ドル台に達したが、成約値はこれよりも安い水準となった。足元のトルコ向け米国産 HMS (80 : 20) 相場は CFR300 ドル付近でもみ合い、9 月第 2 週後半から新規成約が聞かれない。トルコ相場の上昇機運が後退していることも、アジア市場に影響を及ぼしているようだ。

### 【関東地区】 電炉筋の値上げ散発 荷動き低調で引き合い強める

関東市場では市中スクラップの発生・荷動きが依然低迷しており、電炉入荷にバラつきが生じている。また、電炉買値の中心値に対して浜値が先行高の状況となっていることも電炉入荷が伸びない要因の一つだ。このため電炉筋の間に鉄スクラップ購入価格を値上げする動きが散発している。9 月 17 日午前時点の H2 炉前実勢価格は 26,000 ~ 27,000 円中心、高値 27,500 ~ 28,000 円中心。H2 浜値は 27,000 ~ 27,500 円中心。

### 【東海地区】 需給引き締まり堅調感推移続く

東海地区の市況は続伸後も堅調感を維持している。地区内では 9 月 15 日から東京製鉄・田原工場が 9 月に入り 2 回目の値上げを実施。値上げ幅は 1,000 円で、他の電炉筋も即日反応し一斉に値上げ改定を行ったため、市中相場も上伸した。電炉メーカーの生産は夏季減産期を終えたこともあり、前月比では大きく回復し増産へと向かっていることも相場を下支えしている。9 月 17 日午前時点の H2 炉前実勢価格は 25,500 ~ 27,000 円中心。

### 【関西地区】 需給逼迫感解消せず高値追いの展開

大阪地区の鉄スクラップ市況は高値追いの展開となっている。電炉筋によっては入荷押し上げが着々と図れているが、全体の生産計画量を満たすほどの荷動きには至っておらず、強含み気配のまま 9 月第 2 週後半へと向かっている。東京製鉄・岡山工場に値動きがないが、水面下を含めた引き合いが散見される。9 月 17 日午前時点の H2 炉前実勢価格は、大阪地区が 25,000 ~ 27,000 円中心。姫路地区が 25,500 ~ 26,500 円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、9月17日午前時点のもの)

# 行事予定

October

## — 10月の主な行事予定 —

- 10月6日(火)  
J-FAR(事例集) 定例会議 ※リモート会議
- 10月7日(水)  
自動車リサイクル士制度 第1回更新講習会
- 10月8日(金)  
第5回 リサイクル技術部会 ※リモート会議
- 10月14日(水)  
第6回 広報部会 ※リモート会議
- 10月28日(水)  
自動車リサイクル士制度 第2回更新講習会

※急遽、日程の  
変更・延期の場合がございます。

## お知らせ

### 自動車再資源化協力機構からの一括作動処理時の火災防止措置について

スズキ、日産、マツダの下記車両については、火災予防措置の実施をお願いします。  
エアバック類車上作動処理を実施した際に、運転席側後方のフロアーアンカー部に装備されているラップア  
ウタプリテンショナーからカーペット等に引火する可能性があるそうです。  
詳細は、自動車再資源化機構ホームページを参照し、火災予防措置方法をご確認ください。

#### 【対象車両】

メーカー名	通称名	型式 (自動車排出ガス識別記号を除いた記号)
スズキ	アルト	HA24S/HA25S/HA35S
	ラパン	HE22S
	セルボ	HG21S
日産	ピノ	HC24S
マツダ	キャロル	HB24S/HB25S/HB35S

[http://www.jarp.org/pdfs/information/20200916\\_ab\\_information.pdf](http://www.jarp.org/pdfs/information/20200916_ab_information.pdf)

## 日本自動車リサイクル機構の新支部設立の紹介

2020年9月1日付け、秋田県支部が設立されました。  
支部長には、(株)リーテックス 呉宮 廣哉(クレミヤ コウヤ)社長が就任されました。

## 編集後記

GoTo トラベルキャンペーンといった施策が功を奏したのか、観光地にも再び人が戻りつつあるようです。  
交通機関や飲食店にもようやく光明が差し始めたようで少し安堵しました。世間を見渡せばコロナ騒動もど  
ことなく一段落した雰囲気を感じられますが、しかし我々自動車リサイクル業者にとっては依然として厳し  
い経営環境が続いています。

今月のアンケートを見て貰えればわかるとおり、使用済自動車の入庫、鉄スクラップ売上、リサイクル部  
品売上は軒並み減少傾向にあります。ある程度は予想していたとはいえ厳しい結果となりました。素材価格  
は現在のところ上がり基調にあるとはいえ、肝心の使用済自動車の入庫が増えていないことには収益には繋  
がりません。しかしながら実質統計上では使用済自動車の発生はそれほど激減しているというわけでもあり  
ません。考えられることは大手事業者の寡占化です。アフターコロナと盛んに叫ばれている昨今、今号のアン  
ケートがこれからを生き抜くための経営のあり方や経営の見直しといった、次の一手を模索する何らかの  
参考になれば幸いです。

(広報部会 部会長 永田 則男)